ラ　フォレ　セ　ラ　ヴィ　―森こそ命―

La Forêt, C'est la Vie !

サハラ砂漠から吹き寄せてくる貿易風（ハルマッタン）は、乾季の始まりを告げる風物詩です。
巻き上がる砂に煙る中、ロバに乗って薪を運んでいる女性達とすれ違いました。

２年の経過の後に

2 月 1 日から 2 週間ほど、チャドへ出張に行ってきました。気温が 10 度くらいの日本から、35 度を超えるチャドへ。実に 25 度の気温差を体感しました。

2 年の時を経て降り立った首都ンジャメナは、懐かしくもあり、怪訝な感じもしました。首都の中心部では、いたるところで道路のアスファルト舗装と省庁の建替え・改装工事が進んでいたからです。記憶を頼りにかつての建物に旧知の部署を訪ねても、別の省庁が入っていたり、移転先をたずね当てるのに時間がかかったりと、思わぬ苦労をしました。

一方で、携帯電話を新しく買ったにもかかわらず、その日のうちに、元スタッフから電話がかかってきたのには驚きました。物質的な変化を始めているンジャメナの光景を見て、つながりが途絶えてしまったような気がしましたが、人間のネットワークは幸いにも健在でした。

今回の出張では、北部の方へ移動し、チャド湖の現状を調査しました。その途中、以前のプロジェクト現場を訪れたのですが、状況は以前よりもいっそう差し迫っていました。「知らなかった」では済まされない、厳しい現実を目の当たりにし、言葉がありませんでした。現場を持っている団体として大切なものを見失っていたのではないか、と自分に対して問い直さずにはいられませんでした。現実を直視すること、人間同士のつながりを大切にすること、今回の出張は活動の原点を再認識する機会になったと痛感しています。　（代表　岡本敏樹）